

東北復興

漢字・古代文字を活用した街づくり

[実施主体：喜多方観光物産協会]

福島県
喜多方市



▶ 景観資源としての「蔵」、食資源としての「ラーメン」に次ぐ「漢字のまち」としての新たな観光資源の磨き上げ



フォーラム会場にもなった「大和川酒造北方風土館」



街中のいたるところで古代文字が見られる



古代文字を読み解きながら街を歩く「ミステリーウォーク」の様子

取組概要 約3,000年前の文字に触れる漢字のまち「喜多方」

数年前、商店が古代文字看板を掲出したことをきっかけに、喜多方では、古代文字によるまちづくりをスタートした。「蔵とラーメンのまち」喜多方では、『景観』資源としての蔵と、『食』資源としてのラーメンを結びつける仕掛けが、ボランティアガイド以外に存在しない状況だった。観光客回遊の潤滑油として「漢字のまち」資源を磨き上げる必要性が浮上。プロジェクトを進めるうえで、地域住民や商工業者に対し、資源活用の必要性を理解させ、また、新しい観光資源創出という共通目標を設けたことで、行政を中心に多くの関係者が参加し、古代文字が喜多方エリアの大きな観光資源であるという認識が浸透した。漢字看板を介した観光客と住民との交流が進むと、地域住民自身が喜びを感じ、積極的に取り組むようになった。

地域の特徴

福島県会津地方の北部に位置する喜多方市は、5市町村が合併して誕生。もともと「蔵とラーメンのまち」として発信していた喜多方市に、そば、化石、バルーンといった他ジャンルの観光資源が加わり多様化が進んだ。また、近年では花をテーマとしたまちづくりを推進。スキー場を活用した広大な花畑や、市民の庭のオープンガーデン化を進める等、新しいコンテンツ造成に意欲的なまちである。

取組体制

喜多方観光物産協会と喜多方市中心市街地地域づくり懇談会、地元旅行会社の連携体制に加えて、地域の各種団体に呼びかけ、「漢字(古代文字)」「蔵」「ラーメン」の3本の柱で喜多方のイメージを定着させた。また、平成25年7月には、喜多方を漢字のまちにする会をはじめとし、各団体、企業等で組織する「古代文字を活用した喜多方観光まちづくり推進懇話会」を設立した。平成25年以前の取組としては、市内のメイン通りである駅前通り～ふれあい通り～小田付蔵通りを回遊する散策ルート上の各軒先に、「古代文字」一字を使った「漢字の看板」を各店舗等が掲げ、漢字の散策マップを作成し、この効果により看板が121件まで広がった。ふれあい通りで、漢字の読みや散策マップを使ったイベントを開催、市内の小学生による学年行事等を行った。平成25年度は、これらの取組を基に旅行商品の造成及び更なる漢字のまちの認知度向上を図った。



漢字の専門家高橋先生(上)と街歩きガイドさん



観光庁主催のタピカレ学園祭ではグランプリを受賞

地域づくりのノウハウ

課題 観光客回遊の潤滑油となる「漢字のまち」資源の浸透

- ▶ 新しい観光資源創出という共通目標を設定し、行政を中心に「漢字ガイド」の育成、市内散策のメニューづくり等を実施、漢字・古代文字が喜多方エリアの大きな観光資源であるという認識を共有している。

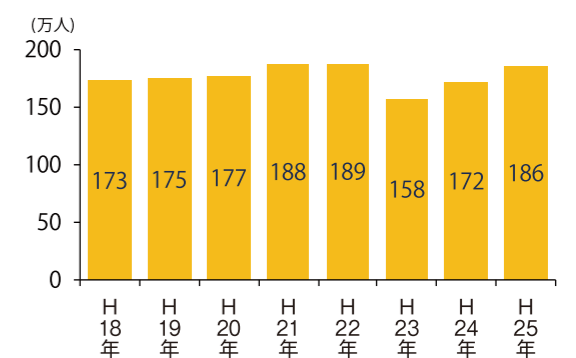
課題 「漢字のまち」資源の磨き上げ

- ▶ 新たな店舗での漢字看板の作成、目立つ位置への移動、各店舗に協力をお願いしている。

取組成果

来訪者のまち歩きの仕掛けとして資源活用が必要であり、地域全体で取り組むべき課題であるという意識を醸成するため、関係者全体を巻き込み、意思疎通を目的として懇話会組織を設置。まちづくりを一体化させたことで、多角的な視点・資源の活きたプログラムとなった。また、まち歩きの仕掛けとして「ミステリーウォーク」を実施し、民間と行政がしっかりと連携できた。

喜多方市の観光入込客数



出典：喜多方市観光交流課

お問い合わせ

喜多方観光物産協会
福島県喜多方市御清水東7244-2

TEL : 0241-24-5200

URL : <http://www.kitakata-kanko.jp>